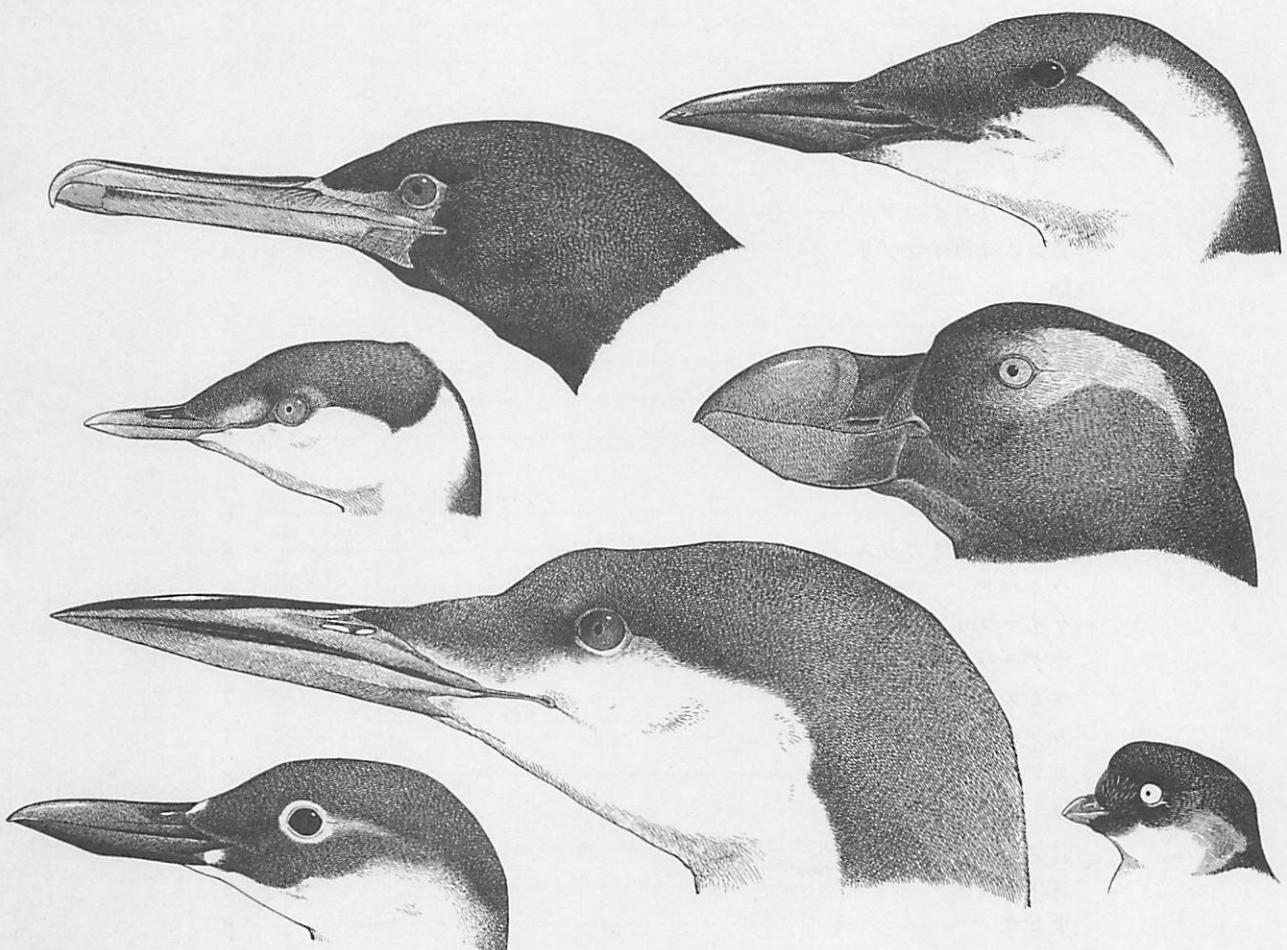


油汚染海鳥影響調査 識別マニュアル



2003

WWFジャパン・財団法人 日本鳥類保護連盟

油汚染海鳥影響調査・識別マニュアル

目 次

はじめに	1
1 このマニュアルの使用法について	2
2 油汚染鳥類の識別と収容	2
アビ類	
アビ	2
オオハム	3
シロエリオオハム	3
カイツブリ類	
ハジロカイツブリ	3
ミミカイツブリ	4
アカエリカイツブリ	4
カンムリカイツブリ	4
ウ類	
カワウ	4
ウミウ	5
ヒメウ	5
チシマウガラス	5
ウミスズメ類	
ウミガラス	6
ハシブトウミガラス	6
ウミバト	6
ケイマフリ	6
マダラウミスズメ	7
ウミスズメ	7
カンムリウミスズメ	7
エトロフウミスズメ	8
ウミオウム	8
シラヒゲウミスズメ	8
コウミスズメ	8
ウツウ	8
ツノメドリ	9
エトピリカ	9
ポスター縮小版	10
3 参考文献	12
謝 辞	12

はじめに

1997年1月に発生したロシア船籍タンカー・ナホトカ号による重油流出事故により、日本海沿岸地域が広範囲にわたって汚染にさらされ、その結果、周辺の自然・海洋環境ならびにそこに生息する野生生物などが大きな痛手を被った。

そうした中で、洋上を通常の生活の舞台としている海鳥類も数多く被害にあい、1,300羽余りの鳥たちが保護・収容された。その際、一定のデータを残すべく、それぞれの個体について種の同定が行われたわけであるが、そこには日常ではほとんどお目にかかれぬような種や、アビ類やウミスズメ類など非常に近似で識別の難しい種もかなり含まれており、しかも個体によっては油にまみれることにより、本来の羽色や形態が分かりづらくなってしまうなど、一部の専門家を除くとその作業が大変困難となるケースがたびたび見受けられた。

そこで、今後再び油汚染事故等により海鳥類が数多く収容されるような事態が発生した際、広く一般の方々からもより正確な情報を寄せていただくために、一通りの識別を可能とするようなマニュアルを作成すべきではないかという意見があがり、いくつかの自然保護団体の代表者に環境省（当時は環境庁）の専門官も加わって、検討が重ねられた。その結果、（財）世界自然保護基金ジャパン（WWF ジャパン）の「日本海タンカー事故・油汚染救済募金」から費用を提供いただくことにより、作成が実現する運びとなった。この「油汚染海鳥影響調査・識別マニュアル」とそれに対応した「日本でみられる海鳥たち」と題する大型ポスターが、こうして出来上がった。

具体的な制作にあたっては、いしかわ動物園の竹田伸一氏に多大なるご尽力をいただくとともに、（財）山階鳥類研究所の茂田良光氏ならびに千葉県立中央博物館の桑原和之氏に、詳細に関する監修など少なからずご協力をいただいた。また、ポスターに掲載されているイラストはすべて、箕輪義隆氏の手による労作で占められている。なお、一連の編集作業については、日本環境災害情報センター事務局の甲野涼氏を中心として取りまとめを完成していただいた。上記の各氏ならびにご貢献いただいた関係各位に、改めて深く感謝の意を表する次第である。

本マニュアルとポスターが、油汚染事故等により被害にあった海鳥の救護や落鳥の回収を行う際に、多くの方々にご活用いただくことにより、その識別と正確な情報の集積のために大いに役立つことを望んでやまない。同時に、一般にはあまりなじみのないような海鳥類に多くの方々が関心を持ち、彼らを保全することの重要性を、少しでも理解していただくための教材として、広くご利用いただけることを強く願うばかりである。

平成15年1月

（財）日本鳥類保護連盟

箕 輪 多津男

1 このマニュアルの使用法について

桑原和之

海鳥類は海洋が主な生活場所であるため、海岸からの観察ではなかなか見ることができない。さらに海鳥類は識別が難しいグループと言われている。天候の急変や人為的な環境の変化により、本来ならば海洋で生活する海鳥類が、海岸付近まで飛来し、時には漂着する。その漂着した落鳥が拾われるだけではなく、衰弱し保護されることも多い。望遠鏡や双眼鏡で区別ができるバードウォッチングに熟練した方でも、保護された時にフィールドガイドや図鑑などでは案外識別や同定ができないことがある。衰弱し保護されても、種名がわからない場合、収容ののち手当てをする際に困惑することが多い。

本冊子では、海上で生活し潜水により小動物を捕食するアビ、カイツブリ、ウ、ウミスズメの仲間のうち、特に海岸で保護されること多い種について簡単に記した。1997年のナホトカ号の重油流出事故による記録から、種を選んだため、本冊子からミズナギドリ類、カモ類、カモメ類については割愛した。

各種の記載は和名、学名、全長、翼長、嘴長の次に分布、特徴、類似種との比較、保護・収容上の注意について簡単に述べた。全長、翼長、嘴長は参考文献などからおおよその値・範囲を示した。測定の方法や体の部位・名称などについては、市販されている図鑑、手引きなどを参考していただきたい。

従来発行されているフィールドガイドや図鑑では、標本や写真の中から典型的な夏羽や冬羽の個体を選んで作図している。今回の図は実際に保護された個体や落鳥した個体などの特徴を考慮するため、博物館や研究機関などに収蔵されている標本をもとに作図した。したがって、図鑑やフィールドガイドに掲載されているよう

な図版とは異なった羽衣も掲載した。一見すると異なった印象を受ける図も含まれるため、図と標本を照合できるように、各図のもとになった標本の番号を各種解説の最後に掲載した。

なお救護と傷病鳥獣保護の手順に関しては、日本鳥類保護連盟発行の野鳥等の油汚染救護マニュアル（環境庁自然保護局野生生物課鳥獣保護業務室編、1999）に詳しく掲載されているのでこちらも併せて参照していただきたい。

2 油汚染鳥類の識別と収容

竹田伸一

アビ類

アビ *Gavia stellata*

全長 53-69cm 翼長 25-29.5cm

嘴長 5.0-5.6cm

[分布] 冬鳥として九州以北の沿岸に渡来する。北海道では旅鳥で冬季は希である。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では頭部が灰色で、黒褐色の背に白い細かい斑点があり、前頸の赤褐色の大きな斑が目立つ。胸から腹にかけては白色。冬羽では前頸は白くなり背中の斑も無くなる。潜水に適応して足は体の最後部についているため、陸上ではほとんど歩くことができず、這うのみである。

[類似種との比較] アビ類3種の中では最も体が小さく、ほっそりしている。嘴は上に反って見え、3種の中では最も細い。

[収容上の注意] 嘴が鋭いので注意を要する。複数で対応するのが望ましく、一人が嘴を持ち、もう一人が体を持って保定する。一人の場合は大きな布などで頭部を覆ってから保定する。保定後は水分を取り、段ボール箱などに収容する。可能なら保温するのが望ましい。

水上生活に適応した体型のため、陸上では体重の負荷がかかりやすく、収容中に胸部や足を

傷めることが多い。ネットをハンモック上に張ったネットボトムケージの使用が不可欠である。とりあえずの方法としては新聞紙を丸めてクッションにし、その上にタオルなどを敷いたものも有効である。

[標本] 石川県野鳥園に収容された個体

オオハム *Gavia arctica*

全長 68-73cm 翼長 29.7-32.6cm

嘴長 6.7-7cm

[分布] 冬鳥として九州以北の沿岸に渡来する。北海道では旅鳥で冬季は希である。3-4月の渡りの期間に、1,000羽を越す群れを形成することがある。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では頭部は灰色、黒色の背に白い斑点があり、前頸には緑色光沢があり、その横に細く白い縦線が並ぶ。胸、腹は白色。冬羽では上面が黒褐色で、のど、前頸が白色になる。潜水に適応して足は体の最後部についているため、陸上ではほとんど歩くことができず、這うのみである。

[類似種との比較] シロエリオオハムと酷似しており、識別には注意を要する。アビ類3種の中では最も大型で、嘴も長く太い。

[収容上の注意] アビに準ずるが、より攻撃的であるので嘴には十分注意する。

[標本] 石川県自然史資料整備室 石254

シロエリオオハム *Gavia pacifica*

全長 58-66cm 翼長 27.5-30.7cm

嘴長 4.9-5.5cm

[分布] 冬鳥として九州以北の沿岸に渡来する。北海道では旅鳥で冬季は希である。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では頭部は灰色、黒色の背に白い斑点があり、前頸には紫色光沢があり、その横に細く白い縦線が並ぶ。胸、腹は白色。冬羽では上面が黒褐色で前頸、のどが白色になる。のどにあご紐のような黒線がある個体

が多い。潜水に適応して足は体の最後部についているため、陸上ではほとんど歩くことができず、這うのみである。

[類似種との比較] オオハムと酷似しており、識別には注意を要する。アビよりも体は太く大きいが、オオハムよりは体が一回り小さく、嘴も短く細い。

[収容上の注意] オオハムに準ずる。

[標本] 石川県自然史資料整備室 石295

カイツブリ類

ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis*

全長 28-34cm 翼長 12.7-13.7cm

嘴長 2-2.5cm

[分布] 冬鳥として九州以北の内湾、湖沼、河川に渡来する。北海道では旅鳥で冬季は希である。2-3月の渡りの期間に大きな群れを形成する。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では顔から首、背など上面は黒く、腹は白色。目の後方に金色の飾り羽がある。冬羽ではのどから前頸、胸、わきが白くなる。目は赤い。

潜水に適応して足は体の最後部についているため、陸上での歩行は不得意だが、危険を感じた時には立ち上がって走ることもある。足の水かきは特徴的で、指一本ずつがヘラのようになっており、弁足と呼ばれる。

[類似種との比較] ミミカイツブリと似るが、やや小さく、嘴は上に反って見える。夏羽では目の後方の飾り羽が三角形に広がる点、冬羽ではほおの白色部がぼやけている点などが異なる。

[収容上の注意] 保定後は水分を取り、段ボール箱などに収容する。可能なら保温するのが望ましい。体重の負荷はあまりかからないが、ネットボトムケージに収容するのが望ましい。意外に跳躍力があり箱を飛び出すことがあるので注意する。

[標本] 千葉県立中央博物館蔵

ミミカイツブリ *Podiceps auritus*

全長 31-38cm 翼長 13.4-14.8cm

嘴長 2.1-2.7cm

[分布] 冬鳥として九州以北の沿岸、湖沼に渡来する。北海道では旅鳥で冬季は希である。ハジロカイツブリに比べ個体数は少ない。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では前頸が赤褐色で、顔や、背など上面は黒く、腹は白色。目の後方に金色の飾り羽がある。冬羽ではほおの白色部の境界がはっきりする。目は赤い。足は弁足。潜水に適応して足は体の最後部についているため、陸上での歩行は不得意だが、危険を感じた時には立ち上がって走ることもある。

[類似種との比較] ハジロカイツブリと似るが、やや大きい。夏羽では目の後方の飾り羽は三角形に広がらない点、冬羽ではのど、ほおの白色部の境界がはっきりしている点などが異なる。

[収容上の注意] ハジロカイツブリに準ずる。

[標本] 山階鳥類研究所 No.3185

アカエリカイツブリ *Podeceps grisegena*

全長 40-50cm 翼長 17.5-20.8cm

嘴長 4.3-5.9cm

[分布] 北海道では夏鳥として湖沼で繁殖し、九州以北の沿岸に冬鳥として渡来する。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では前頸が赤褐色で、ほおは灰白色。嘴は黒く、つけ根が黄色。冬羽ではほお、前頸とも灰色がかかった白色になり、嘴も淡黄色に変わる。潜水に適応して足は体の最後部についているため、陸上ではほとんど歩くことができない。足は弁足。

[類似種との比較] カンムリカイツブリに似るが、体は一回り小さく、嘴は黄色っぽい。夏羽では顔に飾り羽がない。冬羽ではほお、前頸は灰色がかかった色。

[収容上の注意] 嘴で攻撃することもあるが、力はそれほど強くない。保定後は水分を取り、段ボール箱などに収容する。可能なら保温する

のが望ましい。体重の負荷はあまりかからないが、ネットボトムケージに収容するのが望ましい。

[標本] 石川県野鳥園に収容された個体

カンムリカイツブリ *Podeceps cristatus*

全長 46-51cm 翼長 17.2-20.0cm

嘴長 4.0-5.2cm

[保護指定] 環境省レッドリスト：青森県の繁殖個体群は、絶滅のおそれのある地域個体群。

[分布] 冬鳥として九州以北の沿岸、湖沼に渡来するが、北海道では旅鳥で冬季は希である。また東京湾では近年2,000羽を越える大群が見られている。東北、北陸、滋賀県の一部では少数が繁殖している。

[特徴] 雌雄同色。夏羽ではほおに赤褐色の飾り羽が見られる。冬羽では飾り羽がなく、胸から首、ほおにかけて白い。嘴はピンク色。潜水に適応して足は体の最後部についているため、陸上ではほとんど歩くことができない。足は弁足。

[類似種との比較] アカエリカイツブリに似るが、一回り大きく、嘴はピンク色である。夏羽では顔に飾り羽がある。冬場ではほお、前頸が鮮やかに白い。

[収容上の注意] アカエリカイツブリに準ずる。

[標本] 千葉県立中央博物館 CBMZB-1976

ウ類

カワウ *Phalacrocorax carbo*

全長 80-101cm 翼長 31.1-34.8cm

嘴長 5.9-6.9cm

[分布] 本州、四国、九州の河川、湖沼、内湾に生息し、局地的に繁殖している。東北では夏鳥、九州南部以南では冬鳥として生息する。

[特徴] 雌雄同色。全身黒色で背や翼上面は褐色味がある。嘴のつけ根からのどにかけては黄色く皮膚が露出し、取り囲むように、ほおから

のどは白色。繁殖期、頭部と足のつけ根は白くなる。足は体の後部についており、歩行はあまり得意ではない。また4本の足指は全て水かきでつながっている。

[類似種との比較] ウミウと酷似しており、識別には注意を要する。日本産のカワウはウミウよりやや小さい。ウミウは口元の裸出部はとがっており、顔の白色部に黒い斑点がある。ウミウの背や翼上面には緑色の光沢がある。ヒメウは体が一回り小さいうえ、顔に白色部が無く、嘴は細い。

[収容上の注意] 嘴が鋭いうえ力も強く、攻撃的なので注意を要する。複数で対応するのが望ましい。一人が嘴を持ち、もう一人が体を持って保定する。一人の場合は大きな布などで頭部を覆ってから保定する。保定後は水分を取り、段ボール箱などに収容する。可能なら保温するのが望ましい。また羽毛は水を含みやすく乾燥が遅いので、タオルなどで十分に水を取ってから収容する。

[標本] 千葉県立中央博物館 CBMZB-258

ウミウ *Phalacrocorax capillatus*

全長 84–92cm 翼長 31.2–35.0cm

嘴長 6.3–7.5cm

[分布] 北海道、本州、九州北部の主に日本海側で繁殖し、冬季は全国の海岸に見られる。

[特徴] 雌雄同色。全身黒色で背や翼上面は緑色の光沢がある。嘴のつけ根からのどにかけては黄色く皮膚が露出し、取り囮むように、ほおからのどは白色。繁殖期、頭部と足のつけ根は白くなる。足は体の後部についており、歩行はあまり得意ではない。また4本の足指は全て水かきでつながっている。

[類似種との比較] カワウと酷似しており、識別には注意を要する。日本産のカワウより、やや大きい。カワウは嘴のつけ根の裸出部が丸く、背や翼上面は褐色味を帯びている。ヒメウは体

が一回り小さいうえ、顔に白色部が無く、嘴は細い。

[収容上の注意] カワウに準ずる。

[標本] 千葉県立中央博物館 CBMZB-1483

ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus*

全長 63–73cm 翼長 26.0–27.1cm

嘴長 4.6–5.6cm

[分布] 北海道、本州北部、九州北部の主に日本海側で繁殖し、冬季は九州以北の海岸に見られる。

[特徴] 雄雄同色。全身黒色で紫色や青色の光沢がある。夏羽では嘴のつけ根が赤く、頭部に冠羽がある。足は体の後部についており、歩行はあまり得意ではない。また4本の足指は全て水かきでつながっている。

[類似種との比較] チシマウガラスに似るが体はやや小さく、嘴は細く黒い。カワウ、ウミウより体は一回り小さい。

[収容上の注意] カワウに準ずる。

[標本] 長岡市立科学博物館蔵

チシマウガラス *Phalacrocorax urile*

全長 71–89cm 翼長 27.0–28.5cm

嘴長 5.2–5.4cm

[保護指定] 環境省レッドリスト：絶滅危惧 I A類

[分布] 北海道東部にごく少数が繁殖し、冬季は北海道、東北沿岸に見られるが数は少ない。

[特徴] 雌雄同色。全身黒色で緑色や青色の光沢がある。夏羽では目の周囲の露出部が赤く、頭部に冠羽がある。足は体の後部についており、歩行はあまり得意ではない。また4本の足指は全て水かきでつながっている。

[類似種との比較] ヒメウに似るが体はやや大きく、嘴は太く白っぽい。カワウ、ウミウより体は一回り小さい。

[収容上の注意] カワウに準ずる。

[標本] 山階鳥類研究所 №13827 (上), 長岡市立科学博物館 №125 (下)

ウミスズメ類

ウミガラス *Uria aalge*

全長 38-43cm 翼長 20.0-22.1cm
嘴長 4.1-4.6cm

[保護指定] 環境省レッドリスト : 絶滅危惧 I
A類

[分布] 冬季, 本州中部以北の海上で見られるが, 数は少ない. 日本での繁殖地は北海道天売島のみだが, 夏季, 北海道の海上では少数が見られる.

[特徴] 雌雄同色. 夏羽では頭部, 首, 体上面は黒褐色. 胸, 腹は白色. 冬羽ではのど, 顔の下半分が白くなる. 足は体の後部についていて, 歩行は不得意である. また陸上では体を直立させるため一見ペンギンを思わせる.

[類似種との比較] ハシブトウミガラスに似るが, 体色は褐色味が強い. 冬羽ではのどと顔の下半分が白くなる.

[収容上の注意] 嘴で攻撃することもあるが, 力はそれほど強くない. 保定後は水分を取り, 段ボール箱などに収容する. 可能なら保温するのが望ましい. 体重の負荷はあまりかからないが, ネットボトムケージに収容するのが望ましい.

[標本] 長岡市立科学博物館 №232 (上), 長岡市立科学博物館蔵 (下)

ハシブトウミガラス *Uria lomvia*

全長 39-43cm 翼長 21.4-23.2cm
嘴長 4.0-4.9cm

[分布] 本州中部以北の海上に冬鳥として渡来する.

[特徴] 雌雄同色. 夏羽では頭部, 首, 体上面は黒色. 胸, 腹は白色. 夏羽, 冬羽とも上嘴のつけ根に白線がある. 冬羽ではのどが白くなる.

足は体の後部についていて, 歩行は不得意である. また陸上では体を直立させるため一見ペンギンを思わせる.

[類似種との比較] ウミガラスに似るが, 体色は黒く褐色味は少ない. 嘴はやや太く, 上嘴のつけ根に白線がある. また冬羽でも顔はのどを除き黒いままである. ウミガラスと酷似しており, 油などによる羽の汚れや腐敗による嘴の欠損などがみられる場合, 識別には注意を要する.

[収容上の注意] ウミガラスに準ずる.

[標本] 千葉県立中央博物館 CBMZB-2400

ウミバト *Cephus columba*

全長 30-37cm 翼長 17.0-18.7cm
嘴長 3.1-3.7cm

[分布] 北海道, 東北北部の海上に希な冬鳥として渡来する.

[特徴] 雌雄同色. 冬羽では体上面は白っぽく, 淡い黒褐色の班が散在し灰褐色に見える. 胸, 腹など下面は白色. 嘴は黒く, 足は赤い. 足は体の後部についていて, 歩行は不得意である.

[類似種との比較] 冬季, 全身が白っぽい中型のウミスズメは本種のみ.

[収容上の注意] ウミガラスに準ずる.

[標本] 山階鳥類研究所 №3331

ケイマフリ *Cephus carbo*

全長 37-38cm 翼長 18.1-20.2cm
嘴長 3.9-4.2cm

[保護指定] 環境省レッドリスト : 絶滅危惧 II
類

[分布] 北海道と東北で繁殖し, 冬季は本州中部以北の海上に見られる.

[特徴] 雌雄同色. 夏羽では全身黒褐色. 目の周囲と嘴のつけ根に白斑がある. 足は鮮やかな赤色. 冬羽ではのど, 前頸など下面が白くなる. 足は体の後部についていて, 歩行は不得意である.

[類似種との比較] 冬羽のウミバトは体色が白っぽく、ウミガラス類は体が一回り大きい。ウミスズメ類は本種より一様に小さく、嘴も短い。

[収容上の注意] ウミガラスに準ずる。

[標本] 山階鳥類研究所 No.95-0661 (上), No. 77-0144 (下)

マダラウミスズメ

Brachyramphus marmoratus

全長 24-26cm 翼長 12.5-13.3cm
嘴長 1.7-2.2cm

[保護指定] 環境省レッドリスト：情報不足種

[分布] 主に本州中部以北の海上に冬鳥として渡来する。北海道東部では夏季に見られることもあり繁殖記録もあるが、本種の生態の詳細は不明である。

[特徴] 雌雄同色。冬羽では体上面は黒褐色。のど、前頸など下面是白色。肩には細長く白斑がある。足は体の後部についており、歩行は不得意である。

[類似種との比較] 冬羽のウミスズメに似るが、より体が大きく嘴はやや長い。

[収容上の注意] 保定後は水分を取り、段ボール箱などに収容する。可能なら保温するのが望ましい。水上生活に適応した体型のため、陸上では体重の負荷がかかりやすく、収容中に胸部や足を傷めることが多い。ネットをハンモック上に張ったネットボトムケージの使用が望ましい。とりあえずの方法としては新聞紙を丸めてクッションにし、その上にタオルなどを敷いたものも有効である。収容箱に複数収容することが可能である。

[標本] 石川県野鳥園に収容された個体

ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*

全長 24-27cm 翼長 13.0-14.3cm
嘴長 1.3-1.6cm

[保護指定] 環境省レッドリスト：絶滅危惧 I

A類

[分布] 本州以北の海上に冬鳥として渡来し、九州、沖縄でも少数が見られる。北海道天売島、岩手県三貫島では繁殖記録があり、北海道では夏季も見られているが、詳細は不明。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では頭部は黒く、目の後方に太い白線がある。背は暗青灰色で翼は黒い。嘴は淡い肉色。下面是白色。冬羽ではのどが白く、目の後方の白線は無くなる。足は体の後部についており、歩行は不得意である。

[類似種との比較] カンムリウミスズメは目の上から後頭部にかけて白く、冠羽がある。嘴はやや細く長めで、青灰色をしている。マダラウミスズメは嘴が黒く長い。

[収容上の注意] マダラウミスズメに準ずる。

[標本] 石川県野鳥園に収容された個体

カンムリウミスズメ

Synthliboramphus wumizusume

全長 24-26cm 翼長 12.0-13.0cm
嘴長 1.6-1.9cm

[保護指定] IUCN レッドリスト危急種 (VU)
天然記念物、環境省レッドリスト：絶滅危惧 II 類

[分布] 本州中部以南、四国、九州、伊豆諸島の離島での繁殖が知られる。冬季も周辺の海上で生活するらしいが、越冬状況の詳細はよくわかつっていない。かつては北海道やサハリンでも記録され、全国沿岸に留鳥として生息するとされたが、現在では記録のほとんどが本州中部以南からである。

[特徴] 雌雄同色。夏羽では頭頂から後頭部にかけて白く、黒い冠羽がある。顔は黒く、のどから下面是白い。背は暗青灰色で翼は黒い。嘴は青灰色。従来冬羽では冠羽が無いという説もあったが、標本調査では小さいが冬羽でも冠羽がある。足は体の後部についており、歩行は不得意である。

[類似種との比較] ウミスズメに似るが、ウミスズメには冠羽が無く、後頭部は黒い。嘴も短く淡い肉色である。

[収容上の注意] マダラウミスズメに準ずる。

[標本] 石川県自然史資料整備室 石川県野鳥園 b (上), 山階鳥類研究所 NG217 (下)

エトロフウミスズメ *Aethia cristatella*

全長 23-25cm 翼長 13.3-15.1cm

嘴長 1.2-1.4cm

[分布] 北海道、東北の海上に冬鳥として渡来し、時に数千羽の大群を作る。

[特徴] 雌雄同色。全身黒褐色で額には前方に伸びる黒褐色の飾り羽があり、目の後方にも白い飾り羽がある。短く太い嘴は夏羽では鮮やかな赤色だが、冬羽ではくすんだ色となる。また額の飾り羽は冬羽では短くなる。虹彩は白い。

[類似種との比較] シラヒゲウミスズメは体が一回り小さく、額の飾り羽は細い。また額には目の前方に2筋、目の後方に1筋の白い飾り羽がある。ウミオウムは下面が白く、額の飾り羽が無い。

[収容上の注意] マダラウミスズメに準ずる。

[標本] 山階鳥類研究所 №2219

ウミオウム *Aethia psittacula*

全長 23-25cm 翼長 14.6-15.9cm

嘴長 1.4-1.8cm

[分布] 本州中部以北の海上に数の少ない冬鳥として渡来する。

[特徴] 雌雄同色。頭と体上面は黒褐色で、胸以下の下面は白色。目の後方に白い飾り羽がある。短く太い嘴は夏羽では鮮やかな赤色だが、冬羽ではくすんだ色となる。下嘴は特徴的で大きく上に反っている。虹彩は白い。

[類似種との比較] 嘴や虹彩の色は似ているが、エトロフウミスズメ、シラヒゲウミスズメはいずれも全身黒褐色である。

[収容上の注意] マダラウミスズメに準ずる。

[標本] 石川県自然史資料整備室蔵

シラヒゲウミスズメ *Aethia pygmaea*

全長 17-18cm 翼長 10.6-11.9cm

嘴長 1.0-1.1cm

[分布] 北海道、東北の海上にごく希な冬鳥として渡来する。

[特徴] 雌雄同色。全身黒褐色で額に前方に伸びる細く白い飾り羽がある。目の前方に2筋、後方に1筋の細く白い飾り羽がある。短く太い嘴は夏羽では鮮やかな赤色だが、冬羽ではくすんだ色となる。虹彩は白い。

[類似種との比較] エトロフウミスズメは体がより大きく、額の飾り羽が太い。ウミオウムは体の下面が白く、額に飾り羽が無い。

[収容上の注意] マダラウミスズメに準ずる。

[標本] 羽衣は山階鳥類研究所 №26727、嘴の形態は長岡市立科学博物館 №600

コウミスズメ *Aethia pusilla*

全長 12-15cm 翼長 9.0-9.9cm

嘴長 0.8-0.9cm

[分布] 本州中部以北の海上に冬鳥として渡来する。

[特徴] 雌雄同色。冬羽では頭と体上面は黒色で、のど、胸など下面是白色。嘴は小さく黒っぽい。夏羽では額や目の後方に細く白い飾り羽が見られる。虹彩は白い。

[類似種との比較] 他のウミスズメ類に比べると明らかに小さく、日本産のウミスズメ類の中では最も小さい。

[収容上の注意] マダラウミスズメに準ずる。

[標本] 小松市立博物館蔵

ウトウ *Cerorhina monocerata*

全長 35-38cm 翼長 17.2-18.6cm

嘴長 3.2-3.7cm

[分布] 北海道、東北の離島で繁殖し、冬季は本州以北の海上に見られる。九州北部や伊豆諸島でも見られることがある。

[特徴] 雌雄同色。全身ほぼ黒褐色で腹部のみが白色。顔には2本の白い飾り羽があり、嘴は太くオレンジ色で、上嘴のつけ根には突起が見られる。

夏羽では嘴の色は鮮やかで突起も大きいが、冬羽では嘴の色はくすみ、突起も小さくなる。顔の飾り羽は細くなり目立ちにくくなるが、冬羽でも存在する。歩行は不得意である。

[類似種との比較] エトピリカ、ツノメドリは嘴がはるかに太い。またウトウの上嘴には冬でも小さな突起が見られる。

[収容上の注意] ウミスズメ類より攻撃的で嘴の力も強く、足の爪も鋭いので収容時には注意する。保定の際は布などでくるんだ方がよい。

保定後は水分を取り、段ボール箱などに収容する。可能なら保温するのが望ましい。

体重の負荷を受けて足を傷めやすいため、ネットをハンモック上に張ったネットボトムケージの使用が望ましい。とりあえずの方法としては新聞紙を丸めてクッションにし、その上にタオルなどを敷いたものも有効である。

[標本] 石川県野鳥園に収容された個体（上）（3段目）、石115（2段目）、千葉県立中央博物館CBMZB-2003（下）

ツノメドリ *Fratercula corniculata*

全長 36-41cm 翼長 17.9-20.0cm

嘴長 4.6-5.9cm

[分布] 北海道周辺の海上に数の少ない冬鳥として渡来する。北海道では夏季に少数が見られることもある。また早春、能登半島沖の海上で

観察されることがあり、越冬の可能性もあるが詳細は不明である。

[特徴] 雌雄同色。冬羽では全身ほぼ黒褐色で胸、腹が白色。嘴は大きく縦に扁平で、黄褐色である。顔は淡色で周囲との境は明瞭である。足は黄褐色。夏羽では顔が白くなり、嘴は鮮やかな黄色と赤色になる。歩行は不得意である。

[類似種との比較] エトピリカの冬羽に似るが、顔が灰色で体の下面が白い点が異なる。ウトウは明らかに嘴が細い。

[収容上の注意] ウトウに準ずる。

[標本] 山階鳥類研究所 No.28547

エトピリカ *Lunda cirrhata*

全長 36-41cm 翼長 18.9-20.0cm

嘴長 5.1-6.4cm

[保護指定] 環境省レッドリスト：絶滅危惧 I A類

[分布] 北海道東部の離島に少数が繁殖し、冬季は北海道太平洋岸で見られるが数は少ない。早春、能登半島沖の海上で観察されることがあります、越冬の可能性もあるが詳細は不明。

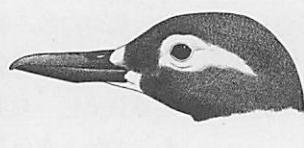
[特徴] 雌雄同色。冬羽では全身ほぼ黒褐色。嘴は大きく、縦に扁平でくすんだオレンジ色である。目の後方にぼんやりと淡色部分が見える。足は黄褐色。夏羽では顔が白くなり、目の後方に白い飾り羽が垂れる。歩行は不得意である。

[類似種との比較] ツノメドリ冬羽に似るが、顔や体の下面に白色部が無く、全身黒褐色である点が異なる。ウトウは明らかに嘴が細い。

[収容上の注意] ウトウに準ずる。

[標本] 山階鳥類研究所 No.26763（上）、No.83-013（下）

日本でみられる海鳥

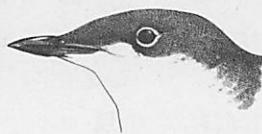
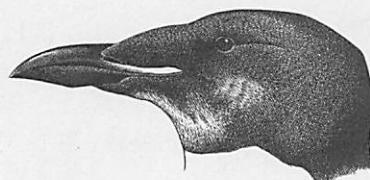


ウミガラス *Uria aalge* 上：夏羽 下：冬羽

ケイマフリ
Cephus carbo 上：夏羽 下：冬羽

コウミスズメ
Aethia pusilla 冬羽

ウミバト
Cephus columba 冬羽



エトロフウミスズメ
Aethia cristatella 冬羽

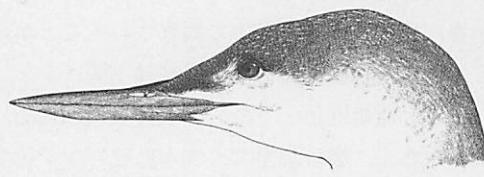


ハシブトウミガラス *Uria lomvia* 冬羽

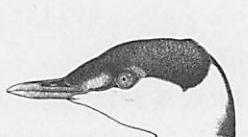
マダラウミスズメ
Brachyramphus marmoratus 冬羽

ウミオウム
Aethia psittacula 冬羽

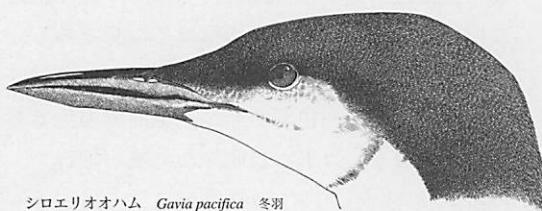
カンムリウミスズメ
Synthliboramphus wumizusume
上：夏羽 下：冬羽



アビ *Gavia stellata* 冬羽



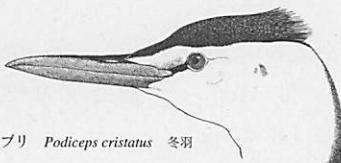
シラヒゲウミスズメ
Aethia pygmaea 冬羽



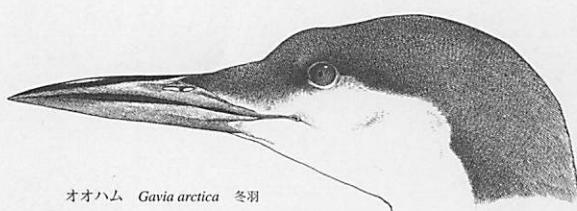
シロエリオオハム *Gavia pacifica* 冬羽

ミミカツブリ
Podiceps auritus 冬羽

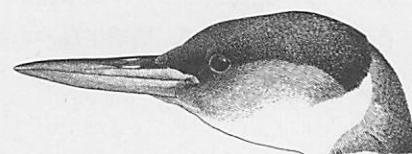
ハジロカツブリ
Podiceps nigricollis 冬羽



カンムリカツブリ *Podiceps cristatus* 冬羽



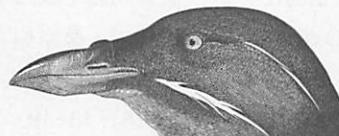
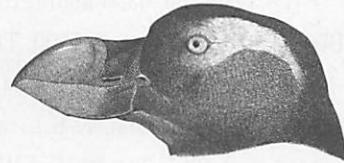
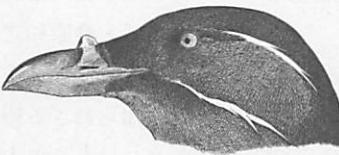
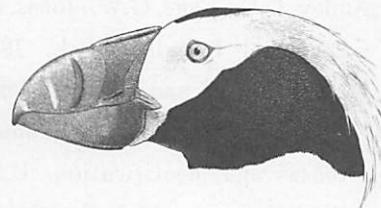
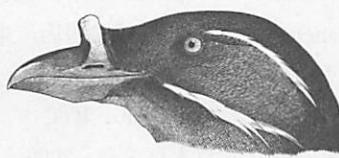
オオハム *Gavia arctica* 冬羽



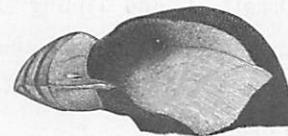
アカエリカツブリ *Podiceps grisegena* 冬羽

たち

アビ・カイツブリ・ウ・ウミスズメの仲間



エトビリカ *Lunda cirrhata* 上：夏羽 下：冬羽

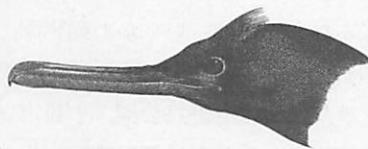


ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*

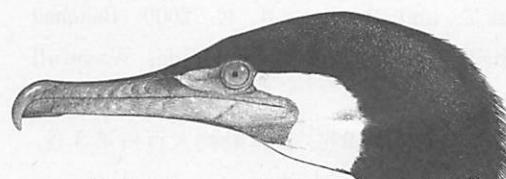
上：夏羽 下：冬羽 中段2点：中間羽

ウトウ *Cerorhinca monocerata*

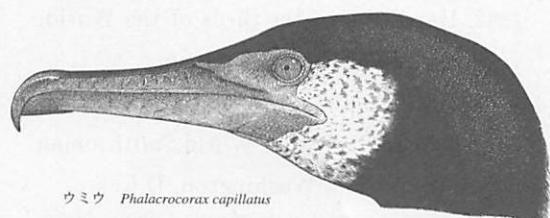
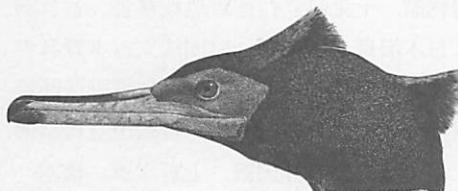
上3点は上嘴の突起の変異を示す。下：幼鳥



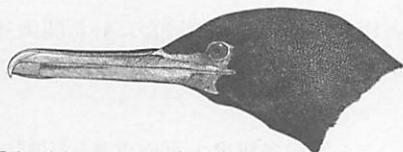
ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus* 冬羽



カワウ *Phalacrocorax carbo*



ウミウ *Phalacrocorax capillatus*



チシマウガラス *Phalacrocorax urile* 上：夏羽 下：冬羽

編集 日本環境災害情報センター <http://homepage2.nifty.com/jedic/>
発行 WWFジャパン・(財)日本鳥類保護連盟
監修 茂田良光・森原和之
イラスト 真輪義隆 ©Yoshitaka Minowa 2003
平成15(2003)年1月発行
●別冊の油汚染海鳥影響調査・識別マニュアルがあります。
●このポスターは1997年ナホトカ号油汚染事故をきっかけに、
野生生物を油汚染事故から守るために、WWF日本海タンカー
事故・油汲摸金の支援を受けて作成しました。



3 参考文献

- Ainley, D.G., Page, G.W., Jones, L.T., Stenzel, L.E. and LeValley, R.L. 1980. Beached marine birds and mammals of the North American west coast: A manual for their census and identification. U.S. Fish and Wildlife Service, Biological Services Prgram, FWS/OBS-80/03. Washington, D.C.
- BirdLife International. 2000. Threatened birds of the world. Lynx Edicions, Barcelona.
- Cramp, S., Simmons, K.E.L. and Perrins, C. M. (eds.) 1985. The Bird of Western Palearctic. vol.4. Oxford University Press, Oxford.
- Enticott, J. and Tipling , D. 1998. Photographic Handbook of the Seabirds of the World.revised edition. New Holland Ltd, London.
- Gaston, A.J. and Jones, I.L. 1998. The Auks, Alcidae. Oxford University Press, Oxford.
- Harrison, P. 1985. Seabirds, an identification Guide. revised edition. Croom Helm, London.
- Hass, T. and Parrish, J. K. 2000. Beached Birds, A COASST Field Guide. Wavefall Press, Seattle.
- 樋口広芳(編). 1996. 日本動物大百科第3巻, 鳥類I. 平凡社, 東京.
- del Hoyo, J., Elliott, A. and Sargatal, J.(eds) 1992. Handbook of the Birds of the World. vol.1. Lynx Edicions, Barcelona.
- Johnsgard, P.A. 1993. Cormorants, Darters, and Pelicans of the World. Smithsonian Institution Press, Washington, D.C.
- 環境省自然環境局野生生物課(編). 2002. 改訂. 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック－2 鳥類.自然環境研究センター, 東京.
- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑 II - III. 増補改訂版. 講談社, 東京.
- 桑原和之・中川富男. 1998. 水鳥の自然保護. 沼田真(編). 自然保護ハンドブック : 618-641. 浅倉書店, 東京.
- 真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 大畑孝二・桑原和之・平田豊治・竹田伸一・箕輪義隆. 2000. 重油流出事故と水鳥の保護活動. 知られざる極東ロシアの自然—ヒグマ・シベリアトラの大地を旅する-. 千葉県立中央博物館平成12年度特別展解説書 : 103-107.
- 竹田伸一・桑原和之・箕輪義隆. 2001. 海上で見られるウミスズメの仲間たち. BIRDER 15 (8): 13-19.

謝 辞

この冊子・ポスターを作成するにあたり、以下の団体・個人にお世話になった。石川県, 石川県民ふれあい公社, いしかわ動物園, 石川県野鳥園石川県自然史資料整備室, 奥駿河湾シーバードクラブ, 東京港野鳥公園, 小松市立博物館, 水鳥研究会, 千葉県自然保護課, 千葉県立中央博物館, 千葉県立行徳野鳥観察舎, 名倉剥製所, 日本海鳥グループ, 財団法人日本野鳥の会, 特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会, 財団法人山階鳥類研究所, 長岡市立科学博物館, 石黒夏美, 石井忠雄, 上野幸雄, 橋本健, 中川富男, 中川律子, 原徹, 平田豊治, 前馬奈美, 矢田新平, 渡辺央。

上記各氏ならびにご貢献いただいた関係各位に、改めて深く感謝の意を表する次第である。

箕輪多津男・東梅貞義・甲野涼

油汚染海鳥影響調査・識別マニュアル

発行 平成15(2003)年1月

監修 財団法人山階鳥類研究所 茂田 良光
千葉県立中央博物館 桑原 和之
執筆者 いしかわ動物園 竹田 伸一
編集 日本環境災害情報センター 甲野 涼
発行 WWF ジャパン・財団法人日本鳥類保護連盟
イラスト 箕輪 義隆
印刷 株式会社 正文社

WWF ジャパン：財団法人世界自然保護基金 ジャパン



〒105-0014 東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6F
Tel 03-3769-1711
URL <http://www.wwf.or.jp>

JSPB：財団法人日本鳥類保護連盟



〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3F
Tel 03-5378-5691
URL <http://www.ask.ne.jp/~jspb/>

JEDIC：日本環境災害情報センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302
(NPO) 野生動物救護獣医師協会内
Tel 042-529-1279
URL <http://homepage2.nifty.com/jedic/>

このマニュアルは日本海タンカー事故・油汚染救済募金により作成しました。
1997年ナホトカ号油汚染事故をきっかけに、野生生物を油汚染事故から守るために作成しました。
このマニュアルには別刷のポスター「日本でみられる海鳥たち（A1判）」があります。

このマニュアルは再生紙を使用しています。

